

目の肺血流シンチで陰影欠損は消失しており、空気による肺塞栓と診断。

発症早期の肺血流シンチによる空気塞栓の証明は稀で、同様な症例に対する早期診断に有効と思われる。

19. IMP 肺シンチグラフィが有用だった症例について

神立 進 後藤 英介 森 豊
川上 憲司 (慈恵医大・放)

胸部レントゲン写真上腫瘤状異常を呈し、肺癌と炎症性疾患との鑑別を要した症例に I-123 IMP による肺シンチグラフィを行い有効な結果を得たので報告する。対象は 9 名である。肺炎が 6 名、肺膿瘍が 3 名である。対照として肺癌 3 名を対象とした。

肺炎症例では、3 時間像で全例に I-123 IMP の集積増加を認めた。肺膿瘍では、2 例に集積増加、1 例に集積の欠損を認めた。しかし、欠損部位の周囲にリング状に集積の増加が認められた。肺癌症例ではいずれも肺のレントゲン写真に一致して集積の低下を認めた。腫瘤状を呈する肺の炎症性疾患で肺癌との鑑別が必要な場合 I-123 IMP 肺シンチグラフィは有用な検査であると考えられた。

20. 血小板シンチグラフィで血栓症を描出できた 1 例

内田 佳孝 養島 聡 安西 好美
岡田 淳一 宇野 公一 有水 昇
(千葉大・放)
鶴田 好考 中川 康次 (同・一外)

深部静脈血栓症に伴う両側肺塞栓症の患者に 2 度血小板シンチグラフィを施行した。方法は In-tropolone にて患者血小板を標識後、患者に静注して 24 時間後にガンマカメラにて撮像した。1 回目の検査では両下肢以外に明らかな異常集積を認めなかったが、右のみ肺塞栓除去術を行い再度同検査を施行したところ、血栓除去をしない左の肺門に新たな集積を認め、血小板寿命の軽度短縮を認めた。その後肺動脈造影を行ったところ、左肺動脈に新たな血栓の形成が認められた。患者は下大静脈にフィルターを設置しており、下肢の血栓によらない新たな肺塞栓形成の発見に、血小板シンチグラフィが有用であった症例と考えられた。